

㊦ (小計 60点)

問一 (10点) 葉造は息子の俊介を高校に進学させたいと考えているが、永伍は、俊介の希望通りに卒業後キョーリンで働かせても良いと考えている。

問二 (16点) 初めは落ち着いて自分のこれからについて話していたが、友人の俊介から本当の気持ちを聞かれ、心の奥にしまっていた、母を亡くした悲しみがこみ上げてきている。

問三 (18点) 友のピンチは助ける、遠慮はしない、という誓いを湯太郎と結んだ上で、一平の父が湯太郎の学資をもつことや、一平の家の離れに湯太郎が住むことを持ちかけ、提案を湯太郎に受け入れさせたこと。

問四 (16点) 大人への一步をふみ出す中学卒業の日に、父親たちが誓いを結んだクスノキに集まって自分たちも名前を刻みこみ、今後お互いを助け合う仲間でいようという誓いを再確認するため。

㊧ (小計 30点)

問一 (12点) 世の中で起きていることについて自分なりに考えられるようになるために必要な情報を、ニュースのプロが無駄なく効率的に選んでいる点。

問二 (18点) 科学技術の進歩により急激に変化する社会においては、未来を見通して自分なりの答えを出す必要がある。そのための材料探しの基盤になるのは、情報を適切に取捨選択できるメディアリテラシーという力だから。

㊨ (小計 10点)

- (2点×5)
- |          |        |
|----------|--------|
| (1) 寄宿   | (2) 博覧 |
| (3) 均整   | (4) 護身 |
| (5) 同工異曲 |        |

【出典】

㊦ 平岡陽明『道をたざねる』

㊧ 新庄秀規・藤山純久『伝える技術はこうみがけ！』

― 読売KODOMO新聞・読売中高生新聞の現場から ―